



とにかく広い室内、人を囲めるにも荷物を積むにも自由自在にレイアウトを調整できるため、使用目的を逃さない。キャンプなどのレジャーでもこれ一台あれば間に合ってしまうことは多いはず。ファミリーユースとしてこれほど使い勝手が良くなおかつリーズナブルなクルマを探すのは至難の業と書いてもいいだろう。

■安心設計と充実の機能

基本的な装備は、リニアリフトと共通であるが、中でも利便性という点で、特に優れているのは、携帯型リモコンのボタン操作だけで自動開閉する後部座席両側リフトスライドドアだ。開口高2330mm、開口幅5800mmと、乗り降りがスムーズに行えるサイズに設計されており、そこから後部座席に移動したり、前席から後部座席に回り込んで降りることでも可能。特に駐車スペースが狭い場合は極めて便利である。また、挟み込み防止機能

■安心設計と充実の機能

フルメタルメタリックとアパマンブラウ
フルメタルメタリックが設定されている。近年
若年層に人気の高いパイオレット系カラー
を用意したところ、バンドデイトの立ち
位置が明らかである。

パルメカニズムは、2010年のフルメ
タルエンジンから採用されている1.2L吸
気型V型エンジンと踏襲。トランスミッシ
ョンには副変速機構付CVTを採用し、加
速性と燃費向上を両立。Dレンジで停車し

■燃費向上へと飽くなき挑戦

ハイデット独自の設定としては、ワンプリクシットにパールブルーのラインが印象的な「デザイン」を施したこと、また、全ラウンドのつちパールメタリックカシ米尔ブルーにミステリアスバイオリックパールは通常のシリオにはないものである。その代わり、通常のシリオにはワンス

燃費向上へ飽くなき挑戦

「インパネトリ、インパネター、ボククス
シロにピンクカラー、オーバーヘッドカラー
など、多彩な模様やカラーが揃っている
のも、小物があふなりがちなファミリー層に
はうれしい配慮。」
そして、身長171cm、室内高134
5mmという、たか所々「天井」の意匠は
やはりその印象である。何しろ、両手をあげて
やしろでも天井にカギと手があたって
左右動かない、またリクライニングと
左右独立2wayの機能を装備したい、後部
座席は、まさに林業の真実だ。

そんなシリオが先たてXタイプならびにSタイプのアルミホイールを15インチにアップするなどのマイナーチェンジを果たし

■クールなフロントマスク

そんな情勢を背景に、2010年にフルモデルチェンジを果したリオ現行モデルは、室内長・室内高ともに旧モデルから拡大し、クラス最大の空間を実現した。二万cc・ユーザーズにとって取り回しがイージーな車体サイズを堅持して、飽くまでコンパクトカーの操作性にこだわった。このジャンルにおける先鞭をきいて、コンサプトのフルは許さなかった。と、いつまでか。

1989年として現在したところ、先進化の発展形として、現に在る「製品生産」を抜けているスズキリイオはいわゆる「コンパクト・ルーフ」の先駆者の存在でもある。コンパクト・ルーフの精意は、フォックス・レスポを彷彿とさせるフンドな席生間を併せ持つコンパクト・ルーフには、ファミリー層を中心に幅広い支持を集めており、各メーカーがそれぞれ異なる商品投入している近年は、より車体サイズを求める市場のニーズにより、単体サイズのみではワゴンがスポーティに接近しつつありと流れの傾向も

■ クラストップの室内空間

プロファイル

ソリオシリーズが放つクールな異彩



SUZUKI SOLIO BANDIT



■テキスト=青柳 健司(フォトライター) ■Photo=川村 勉(川村写真事務所) ■取材協力=スズキアリーナ札幌北 ☎(011)721-8333

走りは軽快そのものであり、また、コンパクトカーにありがちな乗り回す際の不安な感覚は極力抑えてあり、エンジン音自体もコンパクトカーとしてはかなり低減している。「コンパクトカーが欲しいけど軽ではちょっと物足りない」といった両者にはジャストな走り、収納性を有するこのソリオバンディットは、ファーストカーとしての実力も高い。



ディーラーメッセージ

スズキアリーナ札幌比

カーライフ
アドバイザー 梶田 祐樹さん

ソリオバンディットは、人気の盛りデザイン性を追求したコンパクトカーです。これまでのお客様の反応は想像していた以上に良く、今後ソリオをご検討いただく際には、魅力的な選択肢のひとつになってくれると期待しています。

全灯LED化となったLEDポジションライトは、バンディットだけの個性を強調してくれます。特に、夜間走行時のワグワグ感は、これまでのソリオとはひと味違う特長なものになると感じています。個人的には、バンディット専用にデザインされたアルミホイールにも、ぜひ注目していただきたいです。



■静かで軽快な走行性

今回試乗に提供されたのは4WDモデルのリーズ最上位車種（車体価格税別180万6000円）である。運転席に収まっても、感心するのは、視野の広さだ。全方位の窓が、ドライバーに対して開け放たれているかのような感覚を覚える。ドアミラーの後方視認性も秀逸であり、ドライバーの体高に左右されることがほとんどなく、四方の視界が確保されている。ハンドリングもワンタッチでチヤクチャできる、小柄な人も安心だ。

エンジンの点火音はカラカと軽いタッチで、アクセルを踏み込むとますます加速点というレスポンスで車は滑り出す。エンジンブレーキから再びアクセルを踏む際に急な操作をすると、カクンといった具合に軽いノッキングのような挙動を示すが、あるが、扱い慣れた既存ソリオユーザーならば何の違和感もなく加速するところだ。

エンジンの点火音はカラカと軽いタッチで、アクセルを踏み込むとますます加速点というレスポンスで車は滑り出す。エンジンブレーキから再びアクセルを踏む際に急な操作をすると、カクンといった具合に軽いノッキングのような挙動を示すが、あるが、扱い慣れた既存ソリオユーザーならば何の違和感もなく加速するところだ。

今回試乗に提供されたのは4WDモデルのリーズ最上位車種（車体価格税別180万6000円）である。運転席に収まっても、感心するのは、視野の広さだ。全方位の窓が、ドライバーに対して開け放たれているかのような感覚を覚える。ドアミラーの後方視認性も秀逸であり、ドライバーの体高に左右されることがほとんどなく、四方の視界が確保されている。ハンドリングもワンタッチでチヤクチャできる、小柄な人も安心だ。

今回試乗に提供されたのは4WDモデルのリーズ最上位車種（車体価格税別180万6000円）である。運転席に収まっても、感心するのは、視野の広さだ。全方位の窓が、ドライバーに対して開け放たれているかのような感覚を覚える。ドアミラーの後方視認性も秀逸であり、ドライバーの体高に左右されることがほとんどなく、四方の視界が確保されている。ハンドリングもワンタッチでチヤクチャできる、小柄な人も安心だ。

インプレッション

今回試乗に提供されたのは4WDモデルのリーズ最上位車種（車体価格税別180万6000円）である。運転席に収まっても、感心するのは、視野の広さだ。全方位の窓が、ドライバーに対して開け放たれているかのような感覚を覚える。ドアミラーの後方視認性も秀逸であり、ドライバーの体高に左右されることがほとんどなく、四方の視界が確保されている。ハンドリングもワンタッチでチヤクチャできる、小柄な人も安心だ。

■今後の可能性も十分

「以前からソリオに興味を持っていたが、どうしても見た目の決め手に欠いていた」となどという向きは、少なからず存在していたことだろう。今回ソリオバンディットに与えられたグラマラスなマスクは、そんな人たちの選取を下げるだけのポテンシャルを十分に秘めている。また、携帯リモコンなどでドアロックした際に、自動でドアミラーを格納するリモート格納ミラーやワンタッチで後続車のヘッドライトの眩しさを防ぐ防眩式ルミナミーなど、新採用の機能も持ち、様々な工夫が施されている点に好感が持たれた。ただ今後、押し出しの強いデザインに見合うスポーティーな走りを求めるユーザーの声を高まらせていくことは確実であろう。ファミリーユースでありながら、美しさ、経済性、そしてドライビングプレジャーを全て備えたコンパクトカー。新登場のソリオバンディットは、そんなユーザーたちの賛否を要望し、近い将来に与えるだけの資格と責任を生まれるが、に満ちた車と言えるのではないだろうか。